

次世代トレンドの潮流が見えた!

Internet World 2000 完全レポート

編集部
Photo: Akiko Nabeshima

10月23日から27日までの5日間、米国ニューヨークにおいて、インターネットワールド2000が開催された。このイベント最大の見どころは、膨大な面積の展示会場に集まるベンチャー企業である。オラクルやインテルなどの巨大ブースの片隅で、ささやかに展示を行うスタートアップ企業。成功を夢見る彼らのプロダクトには、次のトレンドを占う大きなヒントがたくさん隠されている。

しかし、今年の春にドットコム株が暴落してからというもの、ベンチャー企業にとって厳しい状況が続いているのも確かだ。B2CからB2Bへ、ページビューからプロフィットモデルへとeビジネスのルールは変わった。今回のi-Worldに集まったベンチャー企業も、このような状況を十分に考慮しているように感じられた。今年、「収益モデルはなにか」という質問に「広告」と答えた企業はほとんどなかった。一見、コンシューマ向けに見えるサービスでも、「ECサイトやポータルサイトに自社の機能を提供することで収益を得る」とB2Bモデル中心の戦略をアピールしている。また、パッケージソフトを販売する企業が昨年に比べて激減した点にも注目したい。多くはウェブ上でサービスを提供する「ASPモデル」に移行している。このレポートでは、800社以上の展示のなかから9社、15のプロダクトをピックアップした。キーワードは『ワイヤレス』『ASP』『音声認識』とさまざまだが、次世代トレンドを感じさせる共通のテーマがある。それは「既存のサービスをさらに使いやすくする」ことだ。後発不利といわれるeビジネスの世界で小さなスタートアップ企業が見いだした次の一手をここに紹介しよう。



i World TRENDS ①

アイルランド



アイルランドでは、国内で実際に使われているインターネットキオスクが目を引いた。街中にインターネットに接続するための端末を置いて誰が使うのだろうかと思うかもしれない。しかし、サーバー上にアプリケーションが置かれるようになる今後は、こうした端末のニーズも高まるはずだ。

おもな機能は、ウェブの閲覧(128ビットのSSLにも対応)やメールの送受信のほか、ステレオでオーディオを聴いたり、端末に付属のビデオカメラから動画を送信したり、さらには同製品に対応したワイヤレスプリンターを使って印刷したりといったことができる。課金はクレジットカードやスマートカードで行う。OSはQNXとLinuxの2バージョンが用意されている。



フィンランド

イスラエル



ワールドワイドブース

これまで米国中心だったi-Worldだが、今回は各国のブースがとところ狭しと並び、eビジネスがワールドワイドに広がっていることを象徴していた。そのなかから、ASP時代に活躍しそうな端末を出展したフランスブースとECサイトにユニークなアイデアを提供するスリランカブースを紹介しよう。



インターネットキオスク「Wbnote」。提供しているのはNetnote International社。

スリランカ



スリランカブースからは、ECサイトに革命(?)をもたらすかもしれない斬新なサービスを紹介しよう。

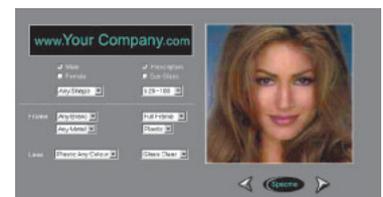
どんなに技術が進歩しても実現できないこ

とがある。それはECサイトでの「試着」だ。しかし、Specme.comは、ウェブ上でメガネの試着ができるサービスを提供しようというからすごい。

ただし、仕組みはいたって単純。まずユーザーは自分の写真をアップロードする。これにレンズやフレームなどの形が違うメガネを重ねてみる。気に入った商品が見つかったらその場で購入。

実際に試してみると、現実味はいまひとつといったところだが、どこかのECサイトがお金をかけてテコ入れすれば、大化けする可能性もある。スリランカ発の斬新かつ素朴なアイデアには拍手を送りたい。

Jump www.specme.com



まず自分の顔をアップロードする。



選んだ条件に応じてさまざまなメガネが自分の顔に重ねられる。



ドイツ

フランス

スリランカ

アイルランド

Billing



自動販売機

携帯電話でジュースを買う自販機は、いまや夢物語ではない。エリクソンブースでは、「jalda」という電子決済技術を使った自販機が展示された。jaldaはエリクソンとヒューレットパッカートの合弁会社であるEHPTが推進役となっている標準技術。購入までの流れは、WAP対応の携帯端末から「ジュースを買いたい」とjaldaサーバーに送る、jaldaサーバーで課金後、購入情報が自販機に送られる、自販機からジュースが出てくるというもの。現在、ヨーロッパでは400以上の企業がjaldaを採用しており、日本ではEHPTの関連会社、UXシステムズが日本語による技術サポートを行っている。

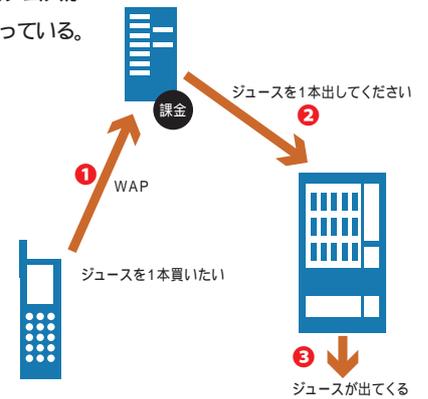


MP3 プレイヤー & JukeBox

自動販売機と同様に、携帯電話で自分の聴きたい音楽をリクエストし、1曲流れるごとに課金されるJukeBoxが展示されていた(写真下)。

また、携帯電話に取り付けるMP3プレイヤー「MP3 Handsfree HPM-10」(写真上)も、近い将来、音楽配信に対応し、自販機やJukeBoxと同様に携帯電話で決済できるようになるとのこと。

こういった支払い金額やサービスの種別を問わない携帯電話による電子決済は、今後、多方面で利用されるだろう。



位置情報もOKの携帯電話

ワイヤレス+位置情報で、さらに便利なサービスが実現する。「Airport」コーナーでは、空港をテーマにGPSを搭載した携帯電話「SmartPhone R380 WORLD」(2001年の第一四半期に発売予定)を使ったデモが行われた。これは、ユーザーが空港にいることを認知したサーバーから空港内のレストランやATMの案内、フライト情報が自動的に送られてくるというもの。さらにここでは携帯電話でチャットができる「iPULSE」というサービスも披露された。



Location



i World TRENDS ③

パーソナルキャスティング

ブロードバンド時代のキラーコンテンツとして期待されるストリーミングビデオ。しかし、どのようなコンテンツが受けるのかはまだ模索中である。そんななか、i-Worldで見つけたキーワードが個人による映像配信「パーソナルキャスティング」だ。

EarthCamTV



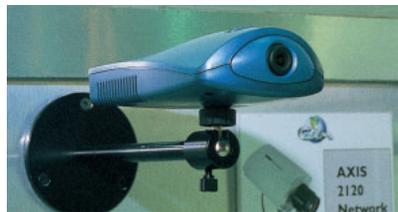
WebCamと呼ばれる定点カメラさえあれば、だれでも無料でTVチャンネルを持てるというのがEarthCamTVの魅力だ。ウェブサイトでサインアップするとすぐにチャンネル番号を割り当てられ、「My Studio」という放送管理用のページが用意される。あとは「EarthCam TV Broadcaster」という無料の映像配信ソフトをダウンロードしてカメラをセットすれば、マイTVの開局だ。

EarthCamTVのサイトには「ペット」や「スポーツ」など、さまざまなチャンネルが登録されているが、なかでも興味深いのが自分の赤ん坊を映し続けている番組だ。展示ブースのスタッフによれば、ベビーシッターに子供を預けている母親が、職場から子供の様子を見守るために作ったとのこと。まさに、パーソナルキャスティングならではの活用例である。

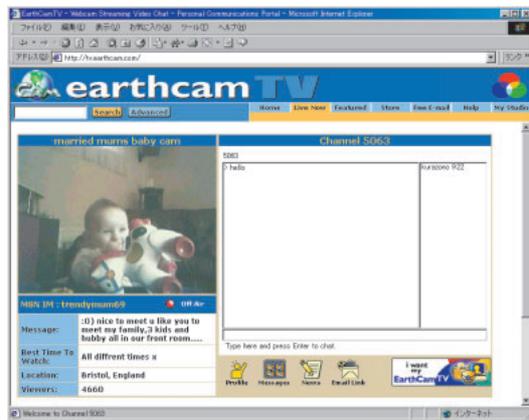
毎秒30フレームの“My TVチャンネル”

今回のi-WorldではEarthCamTV専用の新型カメラ「EarthCam Internet Camera EC 10」も発表された。最大の特徴は、次世代の画像フォーマットJPEG 2000で使われる「Wavelet」という圧縮方式を採用していることだ。これによって、従来のJPEG画像に比べて30パーセントから300パーセントもサイズを小さくできる。このカメラを使えば、最大で毎秒30フレームの動画配信が行えるというから驚きだ。さらに、本体に100ユーザーの同時にアクセスに対応するウェブサーバーを内蔵しているため、PCなしでもインターネット中継ができる。価格は749.95ドル。ちなみに、日本でもVAIO GTを使ったパーキヤスが始まるスタッフに話したところ、「おもしろい! もっと聞かせろ」と質問責めにあってしまった。

www.earthcam.com



JPEG 2000の技術を採用したEarthCam Internet Camera EC 10



自分の子供を写し続けるチャンネル。右の枠では視聴者とのチャットもできる。

Be Here



360度カメラ「iVideo」

テレビから送られてくる映像は、カメラマンと同じ視点で見ることを強いられる。しかし、実際に現地にいれば、「自分の視点」でその場の出来事を捉えているはずだ。この意味で、Be Hereの技術を使ったストリーミングは「自分が見たいもの」を見せてくれる究極のパーソナルメディアと言える。実に、彼らの提供するビデオは画面をマウスでドラッグするとカメラアングルを360度の方向に移動できるのだ。もちろん、マウスから手を離すと指定したアングルでビデオが動き出す。静止画の360度パノラマなら珍しいが、

番組のアングルを決めるのは“自分”

動画でこれを実現しているから驚きだ。コンテンツの配信には360度の映像を同時に撮影できる「iVideo」という特殊なカメラを利用する。撮影された映像は、専用のソフトウェアによって、リアルタイムに



www.musictoday.com

Dave Matthews Bandのライブが360度のアングルで見られる。「Have the best seat in the house」(ベストな席に座ってください)のメッセージが載せられているが、実際のライブ会場でも自分だけの特等席を選ぶなんてことはなかなかできない。バンドの背後から見るライブもなかなかエキサイティングだ。

RealVideo形式やウィンドウズメディア形式にエンコードされるため、ライブ配信も行える。なにはともあれ、実際にBe Here対応のストリーミングを体験してほしい。

www.behere.com

www.expn.go.com/xgames/s/xathlete.html
EXPNのX Games(スケートボード、インラインスケート、BMXなどのストリート系スポーツ)というサイトではさまざまな競技が360度のアングルで見られる。写真はBMXで半円形のチューブを滑り降りる映像だが、視点を変えることで臨場感あふれる映像を体験できる。スポーツ番組でBe Hereの技術が効果的であることがわかる。



i World TRENDS ④

音声認識

ウェブユーザビリティが脚光を浴びる今日、いかにしてインターネットの使い勝手をよくするかが、顧客獲得を目指すeビジネスの重要な課題となっている。このテーマを突き詰めた結果、「音声認識」という回答に辿りついた2社の、それぞれの取り組みを紹介しよう。

AOLbyPhone



AOLユーザーの必需品、AOL5.0がバージョンアップした。今回、発表されたAOL6.0の数

ある新機能のなかでも、特に注目したいのが「パソコンを開かなくても電話（一般電話および携帯電話）に向かってキーワードを言うだけでAOLのコンテンツをいつでもどこでも利用できる」、その名も「AOLbyPhone」だ。これは昨年、打ち出された「AOL Anywhere」（パソコン以外の機器でAOLのサービスをいつでもどこでも利用できるようにする）の一貫であり、すでにはじまっているテレビとPDA向けのAOLサービスの提供に続くものとなる。

プレス向けのカンファレンスでは電話からメールボックスにアクセスし、受信メールを音声で聞いたり、新規メールを音声で入

いつでもどこでも電話でAOL

力して送信したりといったデモが行われた。コンテンツもスタート当初は「Finance」「Weather」「News」の3つが用意され、音声でメニューを選ぶと情報を読み上げてくれる。初心者の通用口として米国トップの会員数を誇るAOLだが、いったん加入したユーザーもインターネットに慣れるとほかのプロ

バイダーに乗り換えてしまいがちというのもまた事実。そこで常に新しい初心者ユーザーを獲得すべく、より多くのデバイスから簡単にインターネットを利用できるよう、新サービスの開発に余念がないというわけだ。今後は多くの企業との提携を持ち、サービスを充実させていく方針だ。 Jump www.aol.com



さらにパワーアップしたAOL6.0

IVAN

対話型でECサイトをナビゲートしてくれるキャラクター、それが「IVAN」だ。たとえば、BMWのサイトを見たい場合、ユーザーはIVANに向かって「BMWのサイトを見たい」と言う。するとIVANが該当のページへジャンプし、コンテンツを読み上げる。ユーザーがリクエストすれば、車種や価格情報なども読んでくれる。さらに、IVANのガイドに従ってその場で購入もできるというわけだ。開発・提供しているのはOne Voice Technologies社。必要なソフ



対話型のウェブナビゲーション

トはウェブからダウンロードできるが、当然のことながらマイク付きのヘッドセットに関しては各自用意が必要だ（ウェブからもオーダーできる）。

同社はこのサービスをさまざまなECサイトに提供していく方針。提携企業が多くなれば、利用者もよりたくさんのサイトを楽しめるというものだ。2001年には日本にも上陸することなので、IVANに会える日を楽しみに待とう。

Jump www.myivan.com



IVANを起動すると、最初に自分の声による音声認識テストが行われる。



無事、音声で認識されると、いよいよIVANのナビゲートがはじまる。

あらゆるアプリケーションはネットワーク経由でブラウザ上に配信される。パッケージソフトの時代からサービスの時代へとあらゆる企業が転換を図っている。i-WorldでもASPの時代にふさわしい優れたネットワークアプリケーションが多く展示された。

BmyPC

さまざまなASPをブラウザ上に作られたデスクトップに集め、必要な機能をすべてインターネットから提供する。そんな夢のようなサービスを実現したのが、イスラエル発のASPポータル「BmyPC」だ。使えるアプリケーションも、メールやカレンダーはもちろん、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトからウィルスチェックまで、充実の品揃えとなっている。

サインアップ後にログインすると、ブラウザ上にフル画面のBmyPCのデスクトップが表示される。あとは、ウィンドウズやマッキントッシュと同様に、アイコンを



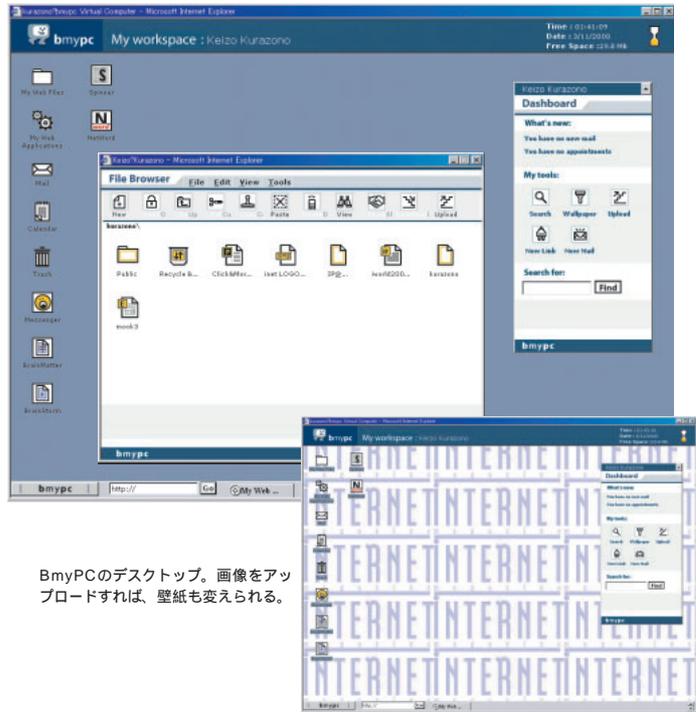
イスラエルコーナーの小さなブースで見つけた驚異のBmyPC。

ダブルクリックするとその都度サーバーからアプリケーションがダウンロードされてくる。登録ユーザーには30Mバイトのスペースが提供され、作成したドキュメントはすべてサーバー上に保存する。近い将来、サーバー上のファイルとPC上のファイルを同期させられるようになるとのこと。

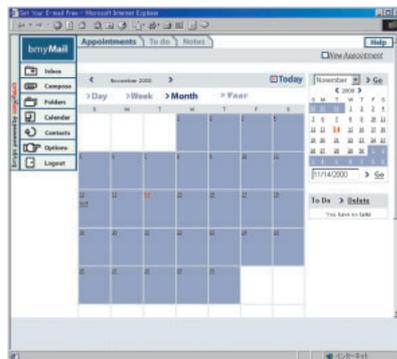
現在のサービスはコンシューマ向けだが、今後はビジネスユーザーにフォーカスしたSOHO向けデスクトップや、教育やファイナンスなど専門分野に特化したデスクトップが用意される予定。なお、B2Bのビジネスモデルとして、ISPが自社のサイトにBmyPCの機能を追加できる「i.s.p/portals」というサービスも提供している。

www.bmypc.com

ブラウザが本当のデスクトップになった



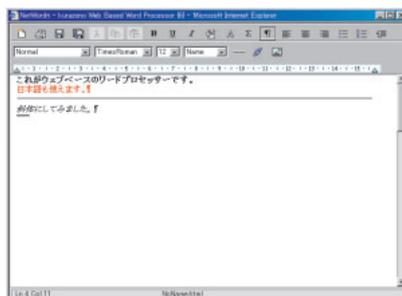
BmyPCのデスクトップ。画像をアップロードすれば、壁紙も変えられる。



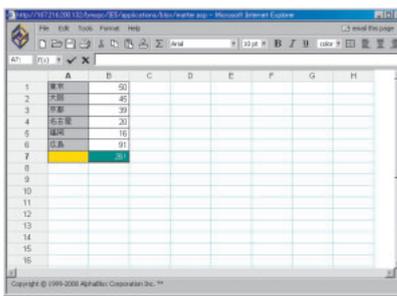
Commtouchが提供するウェブカレンダー。年間、月間、週間、1日での表示ができる。



TREND MICROが提供するウィルスチェッカー。ローカルファイルのスキャンができる。



ウェブ上で動くワープロ「NetWord」。一度ダウンロードすれば軽快に動き、日本語も使える。



Blox.comが提供する表計算ソフト。エクセルファイルのインポート、エクスポートにも対応する。



Blox.com社が提供するプレゼンテーションソフト。テンプレートも豊富。

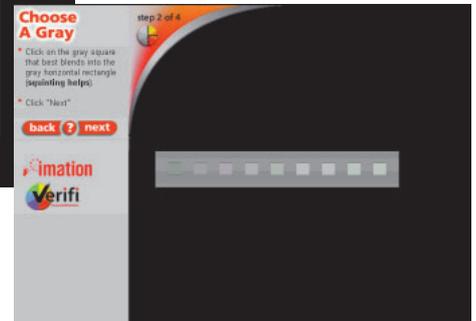
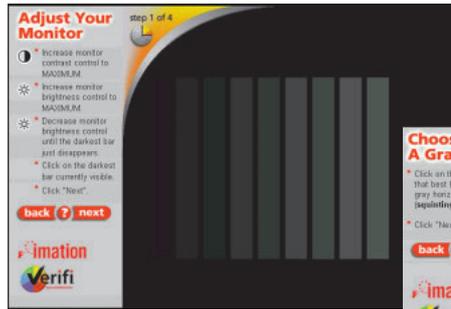
iMation

UNIQLOのサイトで50色のフリースが販売され話題になった。しかし、つい見落としがちな点はユーザーのモニターに表示される「色」がハードウェアによって違うことだ。当然、「こんな色だとは思ってなかった」という問題が起きてても不思議ではない。

そこで登場したのが、IMATION社の「Verifi」という技術だ。これを使うと、特別なソフトウェアやプラグインを使うことなく、ユーザーのハードウェアに合わせて色調整された画像を配信できる。

たとえば、あるECサイトがVerifiを採用した場合、ユーザーは「どれがバランスのいいグレーに見えますか?」といった簡単な質問に答える色調テストを行う。それが終了すると、サーバーからユーザーのパソコンにクッキー情報が送られてくる。以降は、このサイトで画像を表示するときはクッキー情報に従って色調をカスタマイズした画像が表示されるという仕組みだ。

すべてのユーザーに同じ“色”を提供



Verifiのテスト画面。自分のモニターで色をチェックする。

ブロードバンドの時代になれば、いまでも高解像度の写真や画像がECサイトのカタログなどに使われるに違いない。そうなれば、サーバーからユーザーのハードウェアプロファイルによってカスタマイズされた画像を配信するVerifiのような技術は必須となるだろう。

Jump www.verifi.net



右がVerifiで最適化された画像。左と比べて色調が濃くなっているのがわかる。

Multicity & ePALS

ウェブサイトにオークションやチャット、インスタントメッセージなどの機能を提供するASP。これだけならば驚くに値しない。しかし、Multicity.comが他のサービスと決定的に違う点は、英語、イタリア語、中国語、フランス語、日本語など9か国語に対応するリアルタイムの翻訳機能が付いている点だ。オークションサイトの運営者が利用者を世界規模に広げたくても、言語の壁がじゃまをする。コンテンツならば各国版にローカライズもできるが、リアルタイムに内容が更新されるオークションではそれも難しい。そこで、ASP方式で翻訳機能を提供するMulticity.comのようなサービスが必要になるというわけだ。CIO.comがインタ

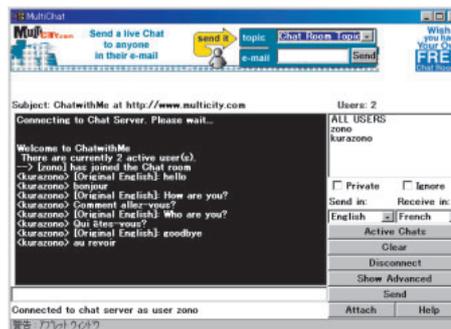


リアルタイム翻訳機能付きコミュニティー

ーネット中継を行った「インターネットセキュリティフォーラム」でも、出演者と視聴者とのチャットにMulticity.comのリアルタイム翻訳機能が使われている。

ほかにも、学生や教師のためのコミュニティーサイトePALSが、翻訳機能付きのウェブメールや掲示板を提供している。

ECサイトやコミュニティーサイトのグローバル展開に向けて、翻訳機能を提供するASPは大きなトレンドとなりそうだ。



Jump www.multicity.com

チャットをリアルタイムに翻訳する。上記の画面では、送信側が英語で入力し、受信側がそれをドイツ語で読んでいる。世界中の人々と気軽に会話できる日も近い。



Jump www.epals.com

翻訳機能が付いたウェブメール。子供向けコミュニティーの同サイトでは、世界中の友人と言語の壁を感じることなくメールのやりとりができるよう工夫されている。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp